

日・中・仏 三国友好協力への想い



医療法人社団 アール・アンド・オー R&O国際交流室 星野 友昭

今回は中国貴州省の中医薬大学附属第二病院との友好協定締結合意のために訪問しました。友好の目的は主にリハビリテーション分野で西洋医学と東洋医学の融合を目指しています。昨年7月の第二病院視察団が当法人のリハビリテーションシステムに興味を持ち、現地指導を含め、技術やマネジメント面で協力していくための合意をしました。現状では、中医を中心に鍼灸による治療も提供しており、日本でも使用されているリハビリマシンや検査機器も設置されており、中医の処方と併用で行われている状況でした。そのため、今後は中国の職員と連携を取りつつ、中国のニーズに対応しながらリハビリテーションの関する支援を行っていかねばと考えています。

病院視察においては、各階で対象疾患が分類されており、ユニット体制で医療を提供している点など学ぶことも多くあると感じました。相互によく理解し合い、双方にメリットのある関係性が構築できればと期待しつつ、R&O国際交流室として支援計画を策定しております。



株式会社スターティングアップ 代表取締役 神原 泰三 山本 泰三氏

R&Oリハビリ病院グループ(以下R&O)との縁は、2015年5月に鈴木理事長より法人の回復リハビリテーション病棟におけるシステムティックなリハビリセラピストの教育体系の構築を依頼された時から始まりました。今回第二病院において、R&Oと貴州中医薬大学第二附属病院(以下第二病院)、フランスのEcole d'Assasのリハビリテーション国際交流の中でR&Oの教育体系のコンセプト「リハビリチャレンジ」・「Passive to Active」についてご報告いたしました。初めての訪中で緊張しましたが、第二病院の方々温かく迎えていただき感謝しております。さらに、未知の世界であった中国のリハビリテーションの現場(同系列の紅岩病院)を見学しました。東洋医療、脳血管系、運動器系、循環器系、小児とカテゴリー分けされた病棟で医師と看護師を中心とした専門チームがリハビリテーション治療を提供していました。日本の回復リハビリテーション病棟では片麻痺や骨折後の患者さんが混在している場合がほとんどで、第二病院の区分された専門的チームによるリハビリテーションの提供体系は見習うべき点と感じました。東洋医療では脳卒中の痙攣性麻痺に対する「筋肉張力バランス針灸」、心臓リハビリテーションとして「八段階」と興味深く拝見しました。文末にてこのような機会を下さったR&O、そして第二病院の皆様へ感謝すると共に、昨年視察された立花氏の勤務されるEcole d'Assas三者三国のリハビリテーション分野の国際交流をサポートできるよう、この貴重な体験を今後の活動に役立てることをお誓い申し上げます。



Ecole d'Assas国際交流室 立花 祥太郎氏

昨年2018年R&Oリハビリ病院グループと共に視察した貴州中医薬大学(旧 貴陽中医学院)第二附属病院は、中国貴州省を代表する大学病院としてリハビリテーションにも力を注いでおられます。特に中国伝統医療と西洋医学伝来のリハビリテーション学を融合することによって、患者様の健康をより良い方向へ導く治療スタンスが印象的でした。西洋医療では元来、病にかかってから治療を施すのが基本でしたが、近年では予防の重要性を取り上げた報告が増えてきております。リハビリテーション分野においてもその傾向が見られており、腰痛などがその代表例として知られています。フランスにおいても健康な身体を維持するための運動の一つの目標として厚生労働省が勧告しているほどです。私共Ecole d'Assasもこの時代のニーズに合わせて、リハビリテーションという概念を広げるための国際交流活動に力を入れています。ヨーロッパ諸国を始め、様々な国との繋がりを得ることで、学生達にセラピストとしてだけでなく一人の人間としての成長も望んでおります。本校ではその成長を促すために海外研修を勤めています。現地の人間や文化に触れることは技術や知識以上に得るものが多く、一つの自信へと繋がる貴重なきっかけだと考えています。幸いにも私達を歓迎してくださった貴州中医薬大学第二附属病院は、国際交流に力を入れておられ、現在も本校の研修先の一つとして前向きに検討していただいております。貴陽の若いセラピスト達からも西洋のリハビリテーション学を新鮮な分野として、その技術や知識を吸収したいという熱意が伝わってきました。両国を結ぶことによって中国はリハビリテーション技能の向上を、フランスは中医薬に伝わる予防医学の知識を、それぞれ得ることが可能なのではないかと私は感じております。それこそ国際交流の最大のメリットであり、将来的により多くの人々に役立てると信じております。



帰国後、鈴木理事長より合意書を手渡す



人間科学博士 早稲田大学人間総合研究センター 招聘研究員 周 思宇氏

2017年は静岡県と中華人民共和国浙江省との友好提携35周年の年でした。両者は1982年4月の友好提携以来、30年以上にわたり、経済、文化、環境問題など幅広い分野における交流を積極的に促進し、相互理解と友情を深めてきました。同年11月、医療法人社団 アール・アンド・オーの国際交流室の神原啓文室長一行が、杭州市においてその35周年記念式典に参加した際、浙江浙健健康管理株式会社の柏理事長と会談しました。今後の日中友好関係の方向性を取り決めました。私とR&O国際交流室との出会いです。

翌2018年2月中国正月、再びR&O国際交流室一行が浙江省嘉興市を訪れ、両社は友好協定を締結しました。また5月には、浙江浙健健康管理株式会社の柏理事長一行が静岡を訪問しました。ハリにあるEcole d'Assas国際部(立花祥太郎所屬)が加わり、日本・フランス・中国の三国友好協定を締結しました。それは類を見ない中国民間企業と海外のリハビリ関連施設の友好協定です。

いよいよ「超高齢化社会」時代がやって来ましたが、各国で高齢者対象のリハビリテーション、および介護に関する事業が進められています。今後は各国間の協働協力が不可欠です。私は早稲田大学人間総合研究センターの招聘研究員として高齢者の健康促進に関する研究を進めています。中国に帰国しても、研究者の立場として国際共同研究・教育事業に協力していきます。早稲田大学は「学問の独立」「学問の活用」「模範国民の造就」を理念とし、教旨が定められています。この理念を胸に、今回出会ったR&OやEcole d'Assasの仲間達と共に、世界一流の国際協力組織として、医療知識と技術を創新していきたいと思っております。



静清リハビリテーション病院 名誉院長 神原 啓文

日・中・仏 三国間の友好医療協定のこれから

今春、鈴木理事長を団長としたR&O国際交流室のメンバーが貴州省の貴陽中医学院第二附属病院および紅岩病院等を訪問、その後、昨年日中仏の友好協定を締結した浙江省健康管理服務有限公司の柏理事長と上海で再会。国際交流室室長を務める私は、今回は訪中出来ませんでしたが、両理事長間の前向きな話がなされました。

貴州と申しても多くの方には?でしょう、上海から西南西へ約1500kmの内陸山岳地域で、標高約1000m。夏でも平均気温23℃程度で、少数民族が多く、中国で最貧の省と言われた省です。しかし空調がなくてもIT機器には好都合な環境で、中国のBig data元年と言われる2014年に向け早くから準備を進め、政府の支援を受けることが出来ました。その結果、国内外の大企業の集積が急速に進み、中国のシリコンバレー、「クラウド貴州」と称されるまでに変貌し、全国平均の1/2程度だったGDPが、今では全省で最も高い伸び率を示すまでになっているそうです。

貴州と言えば、激辛の香辛料とマオタイ酒が有名ですが、マオタイ酒はコーリアンから作られる蒸留酒で、中国の銘酒の筆頭に挙げられる高級酒とも言え、アルコール度数が53度ですので、誰でもが嗜める酒ではないでしょう。乾杯にはよく振る舞われますが、幸い日本の杯よりもかなり小さい1~2ccサイズでなので杯を重ねなければなりません。

話を戻して、我が国は高齢化社会の進展と少子化現象を併せ持ち、世界トップランナーとして走っています。一方、中国も近年まで一人っ子政策を推進してきたことと高齢化に進展があり、日本を後追いつくような状況で、これからの中国のモデルとして日本の対策を学ぶというところで、我が国のリハビリテーションに大変関心を持っておられます。逆に、日本では最先端の医療は高額で、そのコストの増大に頭を抱えており、中国医学が多少なりとも医療費の節減などに寄与するのではないかと、関心が少しずつ高まっています。今回の3国間の連携合意も、このような状況を背景に、相互に学び合うことで、よき成果の生まれることを期待して進められていることをお知らせしたいと思います。



2018年2月、神原院長・立花祥太郎氏視察時の様子を紹介



医療法人社団 アール・アンド・オーの確約

私達の医療・介護は「身体の自立」・「精神の自由」を通して、生きるすばらしさを実感していただくことからはじめます。



R&O リハビリ病院グループ

静岡リウマチ整形外科リハビリ病院 TEL.054-267-1000

静清リハビリテーション病院 TEL.054-653-5858

介護老人保健施設 エスコータウン静岡 TEL.054-267-1010

静岡ホームメディカルケアセンター 指定通所リハビリテーション事業所 アースEarth TEL.054-267-1056 指定訪問リハビリテーション事業所 テラTerra TEL.054-267-1057 指定訪問看護ステーション事業所 ガイアGaia TEL.054-267-1065 指定居宅介護支援事業所 アマネステーションAoi TEL.054-291-5203

駿府の社 クリニック TEL.054-275-0057 通所リハビリテーション 駿府の社 指定通所リハビリテーション事業所 指定介護予防通所リハビリテーション事業所 TEL.054-275-2001

RiOのもりこどもん TEL.054-207-7305

R&O FOOD COMPANY, INC TEL.054-655-3131

グランツ フィットネス・スイミング 介護予防デイ・グランツ TEL.054-260-7235

学研の自立型個別学習 G-PAPILS TEL.054-260-5888

医療法人社団 アール・アンド・オー TEL.054-653-2333 FAX.054-653-2334 R.O 地域医療・介護 ネットワーク室 TEL.054-275-2755 FAX.054-275-2756

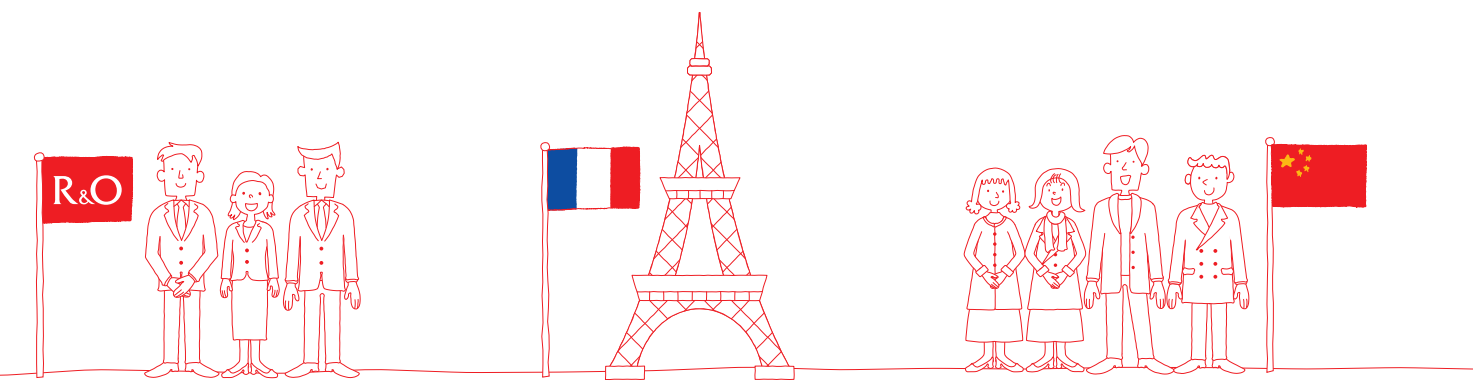
「アールアンドオー」で検索 スマホ・携帯は右QRコードから! アールアンドオー 検索 http://www.r-and-o.jp



R&O国際交流室 レポート vol.3

R&O国際交流室 浙江浙健健康管理服務有限公司 貴州中医薬大学第二附属病院・紅岩病院 Ecole d'Assas国際交流室

ひろがる友好の輪



— 生きるげんき、リハビリで。 —

R&O リハビリ病院グループ

日・中・仏 三国友好協力関係へ ひろがる友好の輪

2018年2月に「康復(カンフー)を知る旅」として、私たちは中華人民共和国の浙江省と貴州省を訪問しました。それを受けて同年5月、浙江浙健健康管理服務有限公司とEcole d'Assas国際交流室の訪問団が来日し、日・中・仏 友好協力協定を締結。そして2019年3月、私たちは日・中・仏 友好協力協定合意のために再び貴州省へ。今後もこうした交流を積み重ね、リハビリテーションの新たな可能性を切り拓くことを目指します。



01 浙江省 [2018.5.10] 日・中・仏 友好協力協定を締結

静清リハビリテーション病院において、R&O国際交流室、浙江浙健健康管理服務有限公司、Ecole d'Assas国際交流室の三者で友好協力協定を結びました。その後、訪問団の皆さんはR&Oリハビリ病院グループを視察されました。



三者三国が一同に会して調印式。左からEcole d'Assas国際交流室 立花祥太郎氏、医療法人社団アール・アンド・オー 鈴木理事長、R&O国際交流室 神原室長、浙江浙健健康管理服務有限公司 柏 士興理事長



立花氏よりフランスワインを贈られた3人

訪問団視察の様子 日本の三大医療「栄養改善」「口腔機能向上」「運動器の機能向上」の現場を見学していただきました。



静清リハビリテーション病院 [栄養改善] R&Oで導入しているニュークックル(食事の個別再加熱システム)に興味深々(見学、静清リハビリテーション病院にて) 駿府の社 [口腔機能向上] R&Oの「口から食べるサポートチーム」による口腔ケアの様子を見学。駿府の社にて 駿府の社 [運動器の機能向上] バランスボールを用いた運動指導をする立花氏と大極拳で鍛えた体力を披露する柏理事長

[2019.3.14] 上海市で柏理事長と再開

紅岩病院・小児リハビリ病院を視察後、上海市にて浙江浙健健康管理服務有限公司 柏 士興理事長と再会を果たしました。今後も三国の友好協力関係を深める取り組みを積極的に行うことを再確認しました。



握手をかわす柏理事長と鈴木理事長 上海で再会した柏理事長ご夫妻と鈴木理事長

02 貴州省 [2019.3.11~15] 日・中・仏 友好協力協定の合意

私たちR&O国際交流室は、鈴木 延幸理事長、静岡県日中友好協会の西原茂樹常務理事とともに中国貴州省貴陽市へ。2018年7月4日に貴陽中医学第二附属病院（現 貴州中医薬大学第二附属病院）訪問団がR&Oを視察したことがきっかけとなり、2019年3月13日、日・中・仏による友好協力協定の合意が行われました。友好協力協定合意調印式をはじめ、病院視察を通して相互の交流と理解をより深めることができました。現在、貴陽中医学第二附属病院は貴州中医薬大学第二附属病院へと昇格し、名称変更しています。

[2018.7.4] 貴陽中医学第二附属病院（現 貴州中医薬大学第二附属病院）訪問団が視察

貴陽中医学第二附属病院から訪問団が来日し、R&Oリハビリ病院グループを視察されました。両国によるプレゼンテーション、看護師同士の情報交換など、これからのリハビリテーションを考える良い機会となりました。



神原室長によるプレゼンテーション 訪問団の循環器の専門医によるプレゼンテーション 団長の黄先生による流暢な日本語でのプレゼンテーション

[2019.3.13] 三国合意書調印式（貴陽中医学第二附属病院は2019年貴州中医薬大学第二附属病院となる）

貴州中医薬大学第二附属病院にて、R&O国際交流室、貴州中医薬大学第二附属病院・紅岩病院、Ecole d'Assas国際交流室の三者で友好協力協定合意の調印式を行いました。中医（鍼灸）と西洋医学（リハビリテーション）の融合を目指している中医薬大学に対して、日本、フランス、R&Oのリハビリテーションについて説明と指導を行うこと。また、見学の受け入れや現地指導など、具体的な内容を協議しました。



合意書調印式の様子 合意書にサインをする鈴木理事長 合意書は3か国で3部ずつ作成



貴州中医薬大学第二附属病院による熱心な歓迎 R&O訪問団と張院長、黄院長と事務方が出席しての記念撮影 医師・中医・看護師・リハビリ担当者などの意見交換会（2018.7 R&Oを視察された医師たち）

[2019.3.12] 貴州中医薬大学第二附属病院を視察

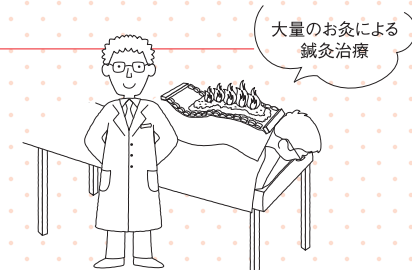
貴州中医薬大学第二附属病院（中医と西医を融合した総合病院）を訪問。リハビリテーション事情に関するプレゼンテーションや意見交換会、実際の治療風景を見学しました。



ロビーにある担当医師の掲示板 中医（中国伝統医学）・西医（西洋医学）・看護師・技師たちの歓迎 日本の現状、R&Oのリハビリテーション説明



骨関節疾患のリハビリ室 中医（鍼灸）治療風景 中医（鍼灸）ショウガを使った灸



[2019.3.13] 貴州中医薬大学を見学

貴州中医薬大学を訪問。漢方薬の栽培所や保管庫を見学しました。貴州省は漢方薬の生産が盛んであり、貴州中医薬大学では在学の学生が栽培・研究をしています。



様々な漢方薬 漢方薬の栽培所を見学 漢方薬の栽培所 貴州中医薬大学

貴州省の食事

野菜中心の辛めの料理が多く、火鍋料理や豆腐団子料理などがあります。年間平均気温15.2°の貴陽市では、基本的に体を冷やさない温める料理、冷たい物は飲まない習慣があり、穀類やクミンなどの温かいスムージーのような飲み物を飲みながら食事をします。また、世界3大蒸留酒である「貴州茅台酒」の産地。アルコール度数は53度で、中国を代表する酒として政府の公式行事の饗宴などでよく用いられます。



[2019.3.14] 紅岩病院・小児リハビリ病院を視察

2015年に創設された紅岩病院を視察しました。中医と西医とともに重視し、両方の利点を取り入れたリハビリが特色です。



院内リハビリ 5ユニット 1.心臓リハビリセンター 2.児童リハビリセンター 3.鍼灸リハビリセンター 4.神経リハビリユニット 5.骨傷リハビリセンター 紅岩病院の外観 紅岩病院本院の前でスタッフの皆さんと



心臓リハビリセンターの皆さん 脳血管障害リハビリ室 手指の可動域練習

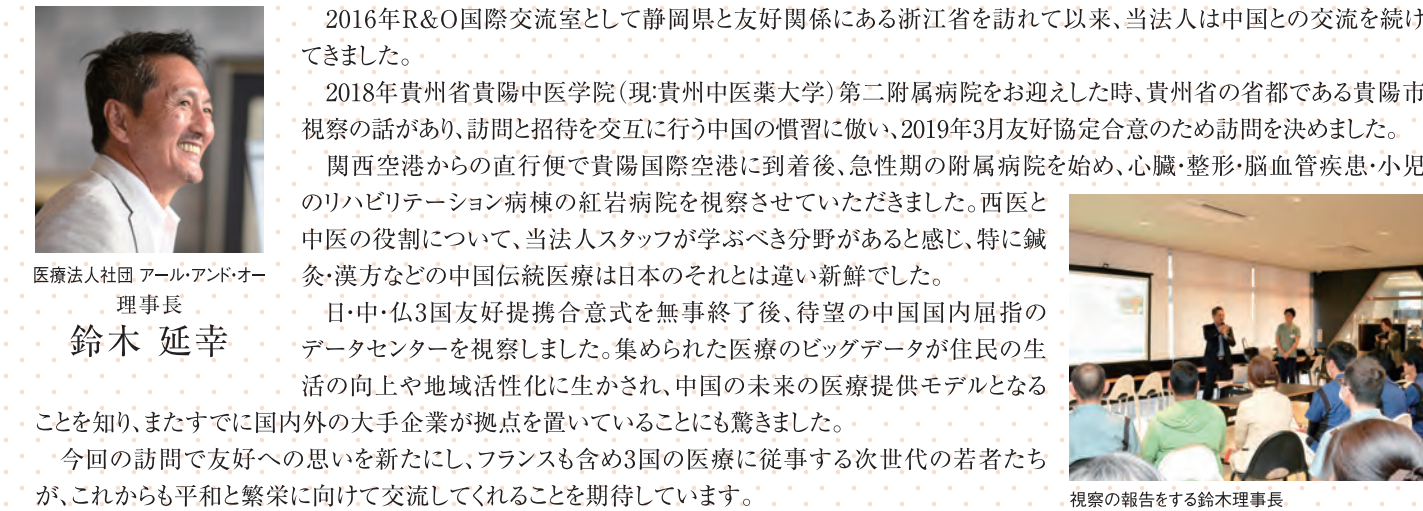


筋力強化機器 心臓リハビリテーション 日本でもかつては使用されていた上肢の可動域訓練機器 日本と変わらない小児のリハビリテーション施設 小児施設でのリハビリの様子 小児施設

今後の展望

私たちは、現在の中国のリハビリテーションの状況を踏まえたうえで、今後も活動を積極的にすすめていきたいと考えています。

- リハビリの専門学校であるEcole d'Assasの国際部は、新しくなった貴州中医薬大学となった組織に対し、学生のインターシップ契約締結を依頼している。浙江省温州市の中医薬大学とは既に結んでおり、浙江省杭州市の同大学とは契約締結進行中である
- 2018年に友好協定を結んだ浙健とも同様に定期的に議論する事で関係性を維持
- 海外からの視察など見学対応を継続して行い、法人の社会貢献の一環として活動を継続

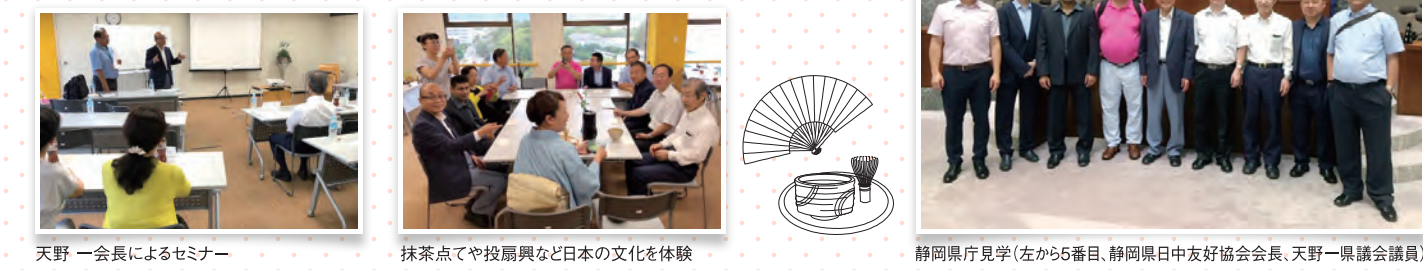


医療法人社団 アール・アンド・オー 理事長 鈴木 延幸 視察の報告をする鈴木理事長

私は日中間の交流に携わって30年になりますが、今回医療交流という初めての貴重な経験をさせていただきました。今回の貴州省訪問友好協力協定の合意は、R&Oリハビリ病院グループ皆様の日頃のご尽力の成果であり今後の展開がとても期待できると確信しました。私は現在、MIJBC (Made in Japan by China) センターの理事長という立場で、生産・販売や技術・投資の面で日中が協力し合う仕組みづくりを推進しています。昨年の安倍首相の訪中以降、日本と中国の経済協力の流れが急速に高まり特に「第3国協力・イノベーション・金融・高齢化」の4分野で成果が急がれています。医療や介護とともに欠かせないリハビリは、中国では遅れており日本との連携に期待が高まっています。医療という分野、習慣の違いはありますが、漢字文化圏であり、針も灸も整体も含めて多くの共通点があります。お互いに足らざるを補い、信頼関係を持って助け合うことは、十分可能です。まずは挑戦してみること！今後の展開に期待しています。

[2018.7.4] 貴陽中医学第二附属病院訪問団（現 貴州中医薬大学第二附属病院）静岡県日中友好協会と日本の伝統文化体験

貴陽中医学第二附属病院訪問団は静岡県日中友好協会の案内のもと、静岡県庁を訪問しました。天野 一会長によるセミナーをはじめ、日本の伝統文化体験など、学びあり遊ありの充実したひとときをともに過ごしました。



天野 一会長によるセミナー 抹茶点でや投扇興など日本の文化を体験 静岡県庁見学（左から5番目、静岡県日中友好協会会長、天野一県議会議員）

[2019.3.14] 静岡県日中友好協会とともにビッグデータセンターを視察



期待していたビッグデータセンター前にて 飛躍的な発展を遂げる貴州市の山中のトンネルは室の山か